

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
生活環境学演習		選択	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
榎田 哲弥	C308	t.enokida	木曜日 10:30~13:00		
授業の目的・概要	作業療法では対象者に合わせた生活環境を設定するため、福祉用具や住環境整備の提案を行う。提案の際には福祉用具・住環境整備に精通していることが求められる。また提案に際し、明確な根拠の提示も必要である。本演習では知識だけでなく、事例を通して作業療法士として求められる提案までの思考プロセスの一部を学習することを目的とする。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート				
学習上の助言	本科目ではグループワークで知識のまとめ、事例検討を行う。積極的に議論に参加してほしい。				
教科書	作業療法学全書 第10巻「福祉用具の使い方・住環境整備」木之瀬 隆				
参考書	「OT・PTのための住環境整備論」野村 歓・他、三輪書店 日常生活・社会生活行為活動 濱口豊太、医学書院				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	福祉用具について適応・使用方法等が説明できる。			OT (2)	
②	住環境整備に関する基礎知識が説明できる。			OT (2)	
③	対象者に適した福祉用具の選定・住環境整備ができる。			OT (2)	
④	自己の意見を述べられるようになる。			OT (3)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション	同時双方向型授業	予習：教科書の精読 復習：教科書・ノートの確認	1	
2	福祉用具の概略について学習する	同時双方向型授業	予習：教科書の精読 復習：教科書・ノートの確認	1	
3	福祉用具について学習する	同時双方向型授業	予習：教科書の精読 復習：教科書・ノートの確認	1	
4	食事関連の福祉用具・環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	2	
5	学習内容発表 (食事)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	1	
6	整容・更衣関連の福祉用具・環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	2	
7	学習内容発表 (更衣・整容)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	1	
8	排泄関連の福祉用具・環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	2	
9	学習内容発表 (排泄)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	1	
10	移乗・姿勢保持の福祉用具・環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	2	
11	学習内容発表 (移乗)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	1	
12	移動関連の福祉用具・環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	2	
13	学習内容発表 (移動)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	1	
14	住環境整備について学習する	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成	2	
15	学習内容発表 (住環境)	同時双方向型授業	予習：発表用資料の作成 復習：資料の確認	1	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/作業療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		40	0	60	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	0	0	30	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	15	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	15	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	福祉用具・住環境整備に関する知識、理解度を問う。				試験後に実施
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	グループで福祉用具・事例検討のプレゼンテーションを行い、質疑応答をし、発表・質疑応答の内容とプレゼンテーション力を評価する。 発表者以外でも内容を問わず積極的な発言は内容・回数で評価をしていく。				講義中に実施
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教員の実務経験	担当する教員は5年以上の臨床経験を有する。						
実践的授業の内容	臨床では個々の対象事例に応じた福祉用具の選択や採否が必要となる。その判断の際に明確な根拠を示す必要がある。臨床を通じて得た知見をもとに、学生同士での事例カンファレンスを通じて、自分の判断根拠を示す重要性について教授する。						
そ の 他	GW 学習が主となるため、グループ内で役割を調整し、各個人が積極的に参加できるように分担すること。教科書以外でも積極的に文献検索を実施するなど、能動的学習態度を身に付けておくこと。						